

第 57 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会

開催記録

1 開催概要

- 日 時：令和 7 年 7 月 2 日（水）10：00 ～ 12：00
- 場 所：JR 東日本 現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・ 谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）
委員	・ 老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・ 小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・ 古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）
オブザーバー	・ 文化庁文化財第二課 史跡部門 ・ 港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・ 港区 街づくり支援部 ・ 東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・ 鉄道博物館 学芸部 ・ JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部
サポート	・ パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配付資料

1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料 1：第 56 回委員会（6/4）全体会議事録案
- ・ 資料 2：第 56 回委員会（6/4）部会①議事録案
- ・ 資料 3：第 56 回委員会（6/4）部会③議事録案

3) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料 1：調査結果について

2 議事要旨

2.1 議事録確認

(1) 開会

- 第 57 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)
- 全体会について、次第(2)と(3)を入れ替えて進める。(事務局)

(2) 議事録確認

1) 第 56 回委員会(6/4)全体会の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2) 第 56 回委員会(6/4)部会①の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

3) 第 56 回委員会(6/4)部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2.2 部会③

(1) 開会

- 第 57 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(事務局)

(2) 調査結果について

- 資料 1 について説明する。(港区)
- ＜説明概要＞
 - 仮橋脚施工箇所の口元管設置位置 KP15-1・16-1・19-1、KAP3-1、土留壁施工箇所におけるボーリング No.79・82・83・84・91・98・101・105・112・119・122・124・126・129・131・133・136・138・143・144 の調査結果を報告する。
 - KP15-1・16-1 から支障物や遺構は検出されなかった。バラスト層が他の口元管よりも厚く堆積していた。同口元管で実施された No.129・122 のボーリング結果と合わせると、薩摩台場の盛土が残存していると考ええる。
 - KP19-1 では口元管 4 段目から近世の陶磁器片が 6 点確認されたが、遺構は確認されなかった。No.101 のボーリング結果と合わせると、薩摩台場の盛土が残存している

と考える。

- KAP3-1 では口元管 3 段目から近世陶磁器片とタイル片が確認され、4 段目東壁よりアンカー構造物と見られる丸太が検出された。KAP3-1 で実施した No.79 ボーリング結果と照合すると口元管 3、4 段目は薩摩台場の盛土が残存していると考え、部分的には近現代に掘削され、タイル片の混入やアンカー構造物の設置がみられると考える。
- 一連のボーリング成果より、全体を通して薩摩台場と考えられる層の上層で黄褐色シルト層または灰色シルト層が見られ、その下部に海砂を含むシルト層が堆積していることがわかる。また、自然堆積層がこれまで想定した T.P.-1.9m よりもやや深いところから検出されたことや、No.133～143 では自然堆積層の上のシルト層から貝片や遺物が検出されたことが特徴的であった。
- 本日の報告を含め、これまでの調査で薩摩台場の様相がほぼ確実に捉えられる大きな成果を得た。自然堆積層の黒色粘土層の上に、薩摩台場の盛土が構築されている。自然堆積層は旧地形の多少の凹凸を反映しているが、概ね一定の堆積状況となっている。(委員長)
- 盛土自体に貝片や礫、近世陶磁器が含まれるが、これは盛土の特徴であり、人為的に盛土したことが明らかになった。(委員長)
- 近代のタイルや鉄道構造物のアンカーなどが確認されたが、局所的には近代以降に手が入っている箇所があるという認識である。(委員長)
- 遺構は確認されていないので、仮橋脚の施工、仮土留の施工については、可と考えるがいかがか。(委員長)
 - ← 異議なし。(委員一同)
 - 本日の報告範囲の施工を可とする。(委員長)
- 以前確認された、薩摩台場に伴う舟入、船着場の可能性が考えられる支障物が検出された箇所については、今後の調査をお願いしたい。(委員長)
- 3 ページ目の凡例が鏡文字になっているので修正いただきたい。(東京都)
 - ← 修正する。(港区)
- 薩摩台場については、今後周知の埋蔵文化財包蔵内に登載することになると思うので、範囲や考え方を整理してほしい。(東京都)

(3) その他

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。
 - ← 特に意見はないが、前回の私の質問に対して中井先生まで呼んで、ご説明いただき感謝する。(文化庁)

- ← 特に意見はない。引き続き検討をお願いする。(東京都)
- ← 次回、JR 東日本より検討状況を説明することなので、港区からの要望について引き続き検討をお願いする。(港区)
- ホームページの公開状況を報告する。第 53 回・第 54 回委員会の内容は 7 月 15 日に公開する。これを受けて、7 月 16 日に予定する有識者検討会議において、これらの内容の情報共有を行うので了承いただきたい。(事務局)
- 次回委員会は 8 月 6 日(水) 10 時 00 分より、会場は JR 東日本現地会議室での開催を予定する。本日はこれで閉会とする。(事務局)

(4) 閉会

3 議事録

3.1 議事録確認

(1) 開会

- (事務局) 第 57 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会します。
- ・ 新任オブザーバー挨拶
 - ・ 資料確認
 - ・ オンラインの案内
 - ・ 次第説明(全体会の次第(2)と(3)を入れ替える)

(2) 議事録確認

- (事務局) 3つの議事録について修正等の指摘はあるか。修正等があれば委員会終了までに連絡をいただきたい。
- (事務局) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

3.2 部会③

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 調査結果について

- (港区) 資料 1 について説明する。仮橋脚施工箇所の口元管設置位置 KP15-1・16-1・19-1、KAP3-1、土留壁施工箇所におけるボーリング No.79・82・83・84・91・98・101・105・112・119・122・124・126・129・131・133・136・138・143・144 の調査結果を報告する。2 ページに口元管の調査結果を示す。KP15-1 と KP16-1 である。結果として、共に支障物や遺構は検出されなかった。両方とも、バラスト層が他の口元管よりも厚く堆積していた。同口元管で実施された No.129・122 のボーリング結果と合わせると、薩摩台場の盛土が残存していると考ええる。3 ページ目に移る。KP19-1 では口元管の 4 段目から近世の陶磁器片が 6 点ほど確認されたが、遺構は確認されていない。No.101 のボーリング結果と合わせると、薩摩台場の盛土が残存していると考ええる。KAP3-1 では口元管 3 段目から近世陶磁器片とタイル片が確認され、4 段目東壁よりアンカー構造物と見られる丸太が検出された。KAP3-1 で実施した No.79 ボーリン

グ結果と照合すると口元管 3、4 段目は薩摩台場の盛土が残存している
と考えるが、部分的には近現代に掘削され、タイル片の混入やアン
カー構造物の設置がみられると考える。4 ページ目で、遮水壁部の一
連のボーリング調査結果をまとめている。一連のボーリング成果より、
全体を通して薩摩台場と考えられる層の上層で黄褐色シルト層または
灰色シルト層が見られ、その下部に海砂を含むシルト層が堆積してい
ることがわかる。また、自然堆積層がこれまで想定した T.P.-1.9m よ
りもやや深いところから検出されたことや、No.133～143 では自然
堆積層の上のシルト層から貝片や遺物が検出されたことが特徴的であ
った。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(委員長) 本日の報告を含め、仮橋脚を予定する箇所的口元管部の調査・ボー
リング調査、仮土留の施工予定範囲のボーリング調査を進めてきた。こ
れまでの調査で、薩摩台場の様相がほぼ確実に捉えられる大きな成果
を得た。自然堆積層の黒色粘土層の上に、薩摩台場の盛土が構築され
ている。自然堆積層は、旧地形の多少の凹凸を反映しているが、概ね
一定の堆積状況となっている。盛土自体に貝片や礫、近世陶磁器が含
まれるが、これは盛土の特徴であり、人為的に盛土したことが明らか
になった。近代のタイルや鉄道構造物のアンカーなどが確認されたが、
局所的には近代以降に手が入っている箇所があるという認識である。
遺構は確認されていないので、仮橋脚の施工、仮土留の施工について
は、可と考えるがいかがか。

(委員一同) 異議なし。

(委員長) 本日の報告範囲の施工を可とする。

(委員長) 以前確認された、薩摩台場に伴う舟入、船着場の可能性が考えられる
支障物が検出された箇所については、今後の調査をお願いしたい。

(東京都) 3 ページ目の凡例が鏡文字になっているので修正いただきたい。

(港区) 修正する。

(東京都) 薩摩台場については、今後周知の埋蔵文化財包蔵内に登載することに
なると思うので、範囲や考え方を整理してほしい。

(委員長) 他に何かなければ、次に進める。

(3) その他

(委員長) その他は何かあるか。

(委員長) 特になければ部会③を閉会する。

(委員長) 最後に文化財行政からコメントをもらう。

(文化庁) 特に意見はないが、前回の私の質問に対して中井先生まで呼んで、ご
説明いただき感謝する。

- (東京都)
(港区)
- 特に意見はない。引き続き検討をお願いする。
次回、JR 東日本より検討状況を説明することなので、港区からの要望について引き続き検討をお願いする。
- (事務局)
- ホームページの公開状況を報告する。第 53 回・第 54 回委員会の内容は 7 月 15 日に公開する。これを受けて、7 月 16 日に予定する有識者検討会議において、これらの内容の情報共有を行うので了承いただきたい。
- (事務局)
- 次回の定例委員会は、8 月 6 日（水）10 時 00 分より、会場は JR 東日本現地会議室を予定する。お忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

(4) 閉会

以 上